

## P-3C体験搭乗

### 神奈川地本カレッジ防衛モニター 一色 啓弥

7月23日(土)、海上自衛隊厚木基地において、P-3C体験搭乗ツアーに参加した。

搭乗準備が完了するまでの間、隊員の方に厚木基地の歴史やマッকারサー上陸に関する様々なエピソードを聞いた。また、厚木基地内の管制塔内で管制官の方々の働く様子を直接見学することができた。

搭乗準備の完了後、機体内へ案内され速やかに離陸した。搭乗は、間は機体内の様々な機器の解説や機体の大窓から海の様子を見ながら普段行われている監視任務の説明を受けた。着陸前には、操縦席の真横に座らせもらい、パイロットの方々の操縦する様子を目の前で見ることができ、合わせて計器類の詳しい解説や操縦方法についても説明を受けた。

今回の体験搭乗では、機体のエンジンの轟音や通常のフライトではありえないような角度での飛行、機体内部・操縦席の様子を見ることができた。このような体験から、普段遠くの空を飛んでいる自衛隊の飛行機がどういった要領で運行されているのかを知ることができ感激した。

この体験搭乗を通して、自衛隊に関する様々な話を聞いたが、その中でも「自衛隊員の職務は国民の生命を守ること」であることを特に強調して語られていたように感じた。自衛隊は、多くの組織の集まりによって構成されており、隊員の方々はその組織内部で課せられた様々な任務を全うする。パイロットの方々のP-3Cの操縦や管制官の方の職務の全てが、結果として国民の生命を守ることに繋がっていることを、今回の体験によって改めて認識した。

## P-3C体験搭乗

### 神奈川地本カレッジ防衛モニター 勝呂 拳人

7月23日(土)、海上自衛隊厚木基地内で対潜哨戒機のP-3Cに搭乗した。

日本全国に物資輸送や人員搬送を行う厚木航空基地のターミナルに到着したとき、当初イメージしていた一般の空港の様子と違って簡素であることに驚いた。また、隊員の方から搭乗に伴う注意事項や厚木航空基地の歴史などの話を聞いた。

基地内には航空管制塔があり、地上指揮をする人と、航空管制をする人、そして二人をまとめる人がそれぞれ機能していた。3人だけで航空管制をしているのに、一本の滑走路から航空機を次々と無駄なく飛ばしている様子を目の当たりにし、凄さを感じた。

待ちに待ったP-3Cに搭乗し、4つのプロペラとエンジンが唸りを上げて離陸した時の衝撃は、これまで体験した民間の大型旅客機とは格段の差があった。気がつくともう海が見えていた。離陸後の機内は歩けないほどかなり揺れていたが、屈強な隊員たちは慣れた様子で、不安げな私たちに何度も笑顔で声を掛けてくれた。このような機内で日本を守る活動をしている隊員は、相当な訓練を日々積んでいるのだらうと感じた。今年の夏は、P-3Cに搭乗するという貴重な体験をさせてもらった。